

日建連の 社会貢献活動

JAPAN FEDERATION OF CONSTRUCTION CONTRACTORS



2019年4月

総目次

I. 日建連 社会貢献活動協議会としての活動	1
(1) 文化的建造物の保存協力ボランティア活動	
(2) 寄付活動	
II. 社会貢献活動協議会会員会社の社会貢献活動事例	22
III. 社会貢献活動協議会以外の会員会社の社会貢献活動事例	136

社会貢献活動協議会会員会社の社会貢献活動事例

【あ行】

あ アイサワ工業株式会社	……	22
青木あすなろ建設株式会社	……	24
あおみ建設株式会社	……	26
株式会社浅沼組	……	28
安藤ハザマ(株式会社安藤・間)	……	30
い 伊藤組土建株式会社	……	32
岩田地崎建設株式会社	……	34
お 株式会社大林組	……	36
株式会社大本組	……	38
株式会社奥村組	……	40
オリエンタル白石株式会社	……	42

【か行】

か 鹿島建設株式会社	……	44
鹿島道路株式会社	……	46
株木建設株式会社	……	48
き 北野建設株式会社	……	50
く 株式会社熊谷組	……	52
こ 株式会社鴻池組	……	54
五洋建設株式会社	……	56

【さ行】

さ 佐藤工業株式会社	……	58
三幸建設工業株式会社	……	60
し 清水建設株式会社	……	62
ショーボンド建設株式会社	……	64
せ 西武建設株式会社	……	66
株式会社銭高組	……	68

【た行】

た 大成建設株式会社	……	70
大成ロテック株式会社	……	72
大日本土木株式会社	……	74
大豊建設株式会社	……	76
高松建設株式会社	……	78
株式会社竹中工務店	……	80
株式会社竹中土木	……	82

て 鉄建建設株式会社	……	84
と 東亜建設工業株式会社	……	86
東急建設株式会社	……	88
東洋建設株式会社	……	90
戸田建設株式会社	……	92
飛島建設株式会社	……	94

【な行】

な 株式会社ナカノフドー建設	……	96
に 西松建設株式会社	……	98
株式会社NIPPON	……	100
日本国土開発株式会社	……	102

【は行】

は 株式会社長谷エコーホレーション	……	104
ひ 株式会社ピーエス三菱	……	106
ふ 株式会社福田組	……	108
株式会社フジタ	……	110
株式会社不動テトラ	……	112
ほ 株式会社本間組	……	114

【ま行】

ま 前田建設工業株式会社	……	116
前田道路株式会社	……	118
松井建設株式会社	……	120
株式会社松村組	……	122
み 三井住友建設株式会社	……	124
みらい建設工業株式会社	……	126
む 村本建設株式会社	……	128

【や行】

よ 寄神建設株式会社	……	130
------------	----	-----

【わ行】

わ 若築建設株式会社	……	132
------------	----	-----

以上 56社

社会貢献活動協議会以外の会員会社の社会貢献活動事例

【あ行】

あ	株式会社浅川組	・・・	136
	株式会社新井組	・・・	137
	荒井建設株式会社	・・・	138
い	勇建設株式会社	・・・	139
う	株式会社植木組	・・・	140
お	大林道路株式会社	・・・	141
	奥村組土木興業株式会社	・・・	142

【か行】

か	株式会社ガイアート	・・・	143
	株式会社加賀田組	・・・	144
く	株式会社クボタ工建	・・・	145
こ	広成建設株式会社	・・・	146

【さ行】

さ	坂田建設株式会社	・・・	147
	三軌建設株式会社	・・・	148
し	新谷建設株式会社	・・・	149
せ	仙建工業株式会社	・・・	150

【た行】

た	大末建設株式会社	・・・	151
	大鉄工業株式会社	・・・	152
	株式会社田中組	・・・	153
	田辺建設株式会社	・・・	154
と	東鉄工業株式会社	・・・	155

【な行】

な	株式会社中山組	・・・	156
に	日特建設株式会社	・・・	157
の	株式会社ノバック	・・・	158

【は行】

は	株式会社橋本店	・・・	159
ひ	株式会社久本組	・・・	160
ふ	株式会社藤木工務店	・・・	161
	不二建設株式会社	・・・	162
ほ	株式会社北都組	・・・	163

【ま行】

ま	松尾建設株式会社	・・・	164
	馬淵建設株式会社	・・・	165
	丸磯建設株式会社	・・・	166
	丸彦渡辺建設株式会社	・・・	167
	株式会社丸山工務所	・・・	168
み	宮坂建設工業株式会社	・・・	169
め	名工建設株式会社	・・・	170

【や行】

や	矢作建設工業株式会社	・・・	171
ゆ	ユニオン建設株式会社	・・・	172
よ	株式会社横河ブリッジ	・・・	173

【ら行】

ら	ライト工業株式会社	・・・	174
り	りんかい日産建設株式会社	・・・	175

以上 40社

I. 日建連 社会貢献活動協議会としての活動

社会貢献活動協議会は、建設業界としての各種の社会貢献活動に関して、寄付要請の受付、要請議案の協議、協力の実施を目的としています。

原則として日建連の正会員である、本会の趣旨に賛同する会社をもって構成しています。

2019年3月現在 会員57社

アイサワ工業(株)	青木あすなろ建設(株)	あおみ建設(株)
(株)浅沼組	(株)安藤・間	伊藤組土建(株)
岩田地崎建設(株)	(株)大林組	(株)大本組
(株)奥村組	オリエンタル白石(株)	鹿島建設(株)
鹿島道路(株)	株木建設(株)	北野建設(株)
(株)熊谷組	(株)鴻池組	五洋建設(株)
佐藤工業(株)	三幸建設工業(株)	清水建設(株)
ショーボンド建設(株)	西武建設(株)	(株)銭高組
大成建設(株)	大成ロテック(株)	大日本土木(株)
大豊建設(株)	高松建設(株)	(株)竹中工務店
(株)竹中土木	鉄建建設(株)	東亜建設工業(株)
東急建設(株)	東洋建設(株)	戸田建設(株)
飛鳥建設(株)	(株)ナカノフドー建設	西松建設(株)
(株)NIPPO	日本道路(株)	日本国土開発(株)
(株)長谷工コーポレーション	(株)ピーエス三菱	(株)福田組
(株)フジタ	(株)不動テトラ	(株)本間組
前田建設工業(株)	前田道路(株)	松井建設(株)
(株)松村組	三井住友建設(株)	みらい建設工業(株)
村本建設(株)	寄神建設(株)	若築建設(株)

(1) 文化的建造物の保存協力ボランティア活動

1. 「旧モーガン邸」庭園清掃ボランティア活動（通算 11 回目）

剪定した竹・枝木の結束・運搬、サワラ林の下草刈り、等

<旧モーガン邸とは>（神奈川県藤沢市大鋸 1122）

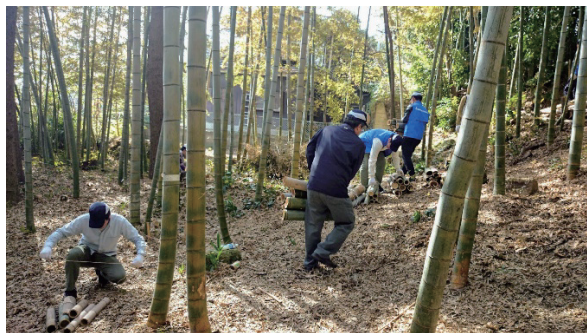
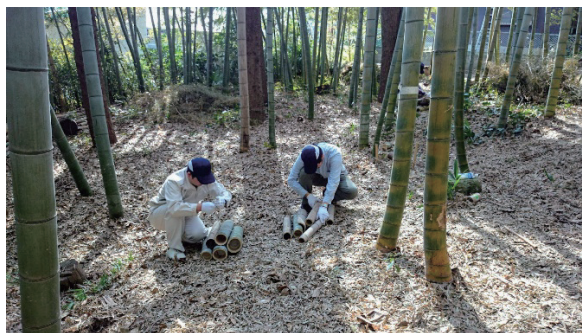
旧モーガン邸は、昭和 6 年に建築家 J. H. モーガンの自邸として建てられました。

モーガン亡き後、何人かの手に渡りましたが、平成 17 年に藤沢市と公益財団法人日本ナショナルトラストが取得、復原改修後に一般公開されることになっていました。ところが、主屋部分が平成 19 年、20 年と二度の火災に遭い、かなりの損傷を受けてしまいました。

現在は、毎月 8 日の一般公開をはじめ、毎月第 3 日曜日に清掃活動、季節ごとのイベントなど、修復再生に向けた活動を行っています。

■平成 30 年 11 月 17 日(土)

参加人数 36 名（会員 11 社・29 名、事務局 4 名）



(2) 寄付活動

No.	要請先	件名
1	一般財団法人スポーツ振興資金財団	東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会経済界募金
2	公益社団法人東京青年会議所	わんぱく相撲全国大会費募金
3	一般財団法人産業遺産国民会議	事業費募金
4	一般財団法人スポーツ振興資金財団	事業費募金
5	第4回がん撲滅サミット事務局	第4回がん撲滅サミット開催費募金
6	公益財団法人日本シルバーボランティアズ	事業費募金
7	一般財団法人経済広報センター	通常会費
8	防衛懇話会	事業費募金
9	日本赤十字社	事業費募金
10	公益財団法人日本交響楽振興財団	事業費募金
11	日本聾話学校後援会	支援金募金
12	特定非営利活動法人ジャパン・プラットフォーム フォーラム	インドネシア・スラウェシ島 地震・津波被災者支援活動募金
13	公益財団法人海外日系人協会	事業費資金
14	(公財)中曽根康弘世界平和研究所	事業費資金
15	社会福祉法人いのちの電話	事業費募金
16	公益財団法人がんの子どもを守る会	協賛金
17	公益財団法人警察協会	救済援護等事業資金募金
18	公益財団法人日本農林漁業振興会	農林水産祭協賛金
19	一般社団法人建設広報協会	国土交通行政推進事業協賛金
20	職業訓練法人全国建設産業教育訓練協会	富士教育訓練センター賛助会費
21	公益財団法人全国教諭師連盟	事業費募金
22	公益社団法人被害者支援都民センター	賛助会員募集
23	上智大学アジア人材養成研究センター	アンコール・ワット遺跡西参道修復工事募金
24	天皇陛下御即位三十年奉祝委員会	天皇陛下御即位三十年奉祝事業協賛金
	合計 24件	

No. 2 公益社団法人東京青年会議所

わんぱく相撲全国大会費募金（昭和62年度～毎年）

わんぱく相撲は、単なるスポーツとしての競技ではなく、試合に挑むことで自分を信じる力を育み、相撲が持つ礼節により相手を思いやる気持ちを学び、大会を支えてくれる人への感謝を大切にするという、勝敗を超えたものを子供達に伝えることを目的としている。

全国各地の青年会議所の協力のもとに、地区大会を開催し、7月末に全国大会を行う。

■第34回わんぱく相撲全国大会

スローガン「踏み出す勇氣 ～明日へつなげる決意の1歩～」

1. 地区大会 平成30年4～6月 約200大会 約4万人参加
2. ブロック大会 平成30年6月 36地域で開催 約1万人参加
3. 全国大会 平成30年7月30日 於：両国国技館
出場選手 350名（115チーム）

写真提供／東京青年会議所



第34回大会

No.3 一般財団法人産業遺産国民会議

事業費募金（平成26年～毎年）

政府は、平成25年9月20日「明治日本の産業革命遺産 九州・山口と関連地域」として、8県11市に跨る28の産業遺産ならびに民間の産業設備を、ユネスコの世界遺産として登録すべく推薦を決定。本世界遺産登録の実現を支援するために、平成25年9月10日「一般財団法人産業遺産国民会議」を設立。

平成26年1月17日の閣議において「明治日本の産業革命遺産 九州・山口と関連地域」について、推薦書正式版をユネスコ世界遺産センターに提出することを了承。

平成26年7月には、内閣官房、九州・山口近代化産業遺産世界遺産推進協議会と連携して、諸外国より産業遺産の保全の専門家をお招きをし、産業遺産の新しい保全の在り方を模索するための産業遺産国際会議を開催。

平成27年7月に、「明治日本の産業革命遺産 製鉄・製鋼、造船、石炭産業」として世界文化遺産登録を達成。登録後は、多くの方に正確に理解して頂くための各種活動として、インタープリテーション戦略の策定・実施を推進している。

写真提供／産業遺産国民会議



「明治日本の産業革命遺産」世界遺産ルート推進協議会 平成30年度総会



スマートフォンアプリ「明治日本の産業革命遺産ガイドアプリパスポート」

No.5 第4回がん撲滅サミット事務局

第4回がん撲滅サミット開催費募金

がんは、わが国において1981年より死因の第1位となり、国民の二人に一人が罹る国民病とも言われている。近年は医学研究や医療技術の進歩、新薬開発等により必ずしも死に至る病ではなくなりつつあり、完治を目指して治療を続けながら通常生活を営む方々も少なくない。

第4回目の今回は、少しでも新しい知識を得て、治療への選択肢を増やしつつ、さらに希望を持ってがんを闘う新しい社会を構築することを目的に、日本のがん医療のトップランナーによる講演を行った。

■第4回がん撲滅サミット

テーマ「がん医療と新しい時代の幕開け！」

1. 会期 平成30年11月18日
2. 会場 東京ビッグサイト
3. 参加 1,000名

写真提供／がん撲滅サミット事務局



第4回がん撲滅サミット



No.6 公益財団法人日本シルバーボランティアズ

事業費募金（昭和55年度～毎年）

定年到達者の知識、経験を活用し、開発途上地域に対して奉仕隊による技術協力をを行い、相互理解と友好親善に寄与することを目的としている。

【主な事業】

1. ボランティアの登録事業
2. ボランティア派遣（平成30年度：89名）
3. シニア海外ボランティア派遣事業の受託
4. 内外事情の調査研究および広報
5. 海外技術協力に係る内外諸機関との協力

写真提供／日本シルバーボランティアズ



中国四川省 柑橘類の栽培技術指導



タイ チャンカムウितタヤコム・
スクール(日本語指導)

No. 8 防衛懇話会

事業費募金（昭和43年度～毎年）

防衛懇話会は、1965年9月30日経済5団体（経済団体連合会、経済同友会、日本経営者団体連盟、日本・東京商工会議所、日本工業倶楽部）を発起人として設立された団体であり、国防思想の普及を図ると共に、国民と自衛隊の相互理解を深め自衛隊の健全な発展に寄与し、もってわが国の平和と繁栄に貢献することを目的としている。

【主な事業】

1. 防衛問題に関する講演会、懇談会等の開催
2. 部隊見学会の実施（陸海空自衛隊各部隊等）
3. 自衛隊退職者の就職援護協力
4. 遠隔地部隊の慰問激励
5. 国際貢献等派遣隊員激励
6. 防衛省に対する協力事業

写真提供／防衛懇話会



観閲式で報告を受ける安倍総理



河野統合幕議長の講演会



高級幹部会同で儀仗を受ける安倍総理と小野寺防衛大臣

No.9 日本赤十字社

事業費募金（平成19年度～毎年）

日本赤十字社は創立以来、世界186カ国の国際赤十字の一員として今日まで140年にわたって、赤十字の理想とする人道的任務を達成するため、地震・風水害等の災害救護、救急医療事業、血液事業、海外での災害・紛争犠牲者に対する国際救援活動など、さまざまな事業の推進に努めてきた。

寄付金は災害救護資材、救援物資、救急医療体制の整備などにあてられる。

【平成30年度活動】

1. 国内災害救護体制の充実強化
2. 東日本大震災復興支援事業の実施
3. 海外での救援活動や開発協力
4. 救急法等の普及、人材育成
5. 青少年赤十字防災教育プログラムの推進
6. 赤十字ボランティア活動の創出
7. ユースボランティアの活性化

写真提供／日本赤十字社



平成30年9月 厚真町総合福祉センター
ボランティアによる物資搬出入



平成30年北海道胆振東部地震
安平町避難所救護所開設



インドネシア・スラウェシ島地震
海外救援派遣 保健衛生

No.10 公益財団法人日本交響楽振興財団

事業費募金（昭和48年度～毎年）

わが国を代表する交響楽団によるコンサートを各地で開催するとともに、アマチュアオーケストラの演奏活動を支援するなど、交響楽の魅力を伝える活動を展開している。2年目を迎えた「特別支援学校オーケストラコンサート」は、今回は地元の音楽ホールで開催し、オーケストラの迫力ある響きを楽しんでもらった。

■「巡回公演」を全国11カ所で開催

オーケストラ演奏会が地方都市で開催される機会は少ない。そこで、わが国の主要楽団を各地に派遣してコンサートを行っている。今年度は京都府舞鶴市を皮切りに香川県観音寺市、滋賀県東近江市など11カ所で実施した。チャイコフスキーのヴァイオリン協奏曲を神尾真由子（読売日本交響楽団、山口県下松市）、千住真理子（大阪交響楽団、大阪府富田林市）、大谷康子（東京フィル、愛知県豊橋市）が、シベリウスのヴァイオリン協奏曲を青木尚佳（山形交響楽団、福島県矢吹町）が、チャイコフスキーのピアノ協奏曲を金子三勇士（東京交響楽団、静岡県伊豆の国市／新日本フィル、長野県岡谷市）が熱演するなど、本年度も聴衆を魅了する演奏会がつづいた（写真参照）。

■「アマチュアオーケストラの演奏会」を全国5カ所で実施

日本各地には熱心なアマチュアオーケストラが存在する。本年度は浦和ユースオーケストラ（さいたま市）、FAF管弦楽団（東京都墨田区）、大津管弦楽団（滋賀県大津市）、虎の門交響楽団（東京都杉並区）、岐阜県交響楽団（羽島市）の演奏会を助成した（括弧は開催地）。

■音楽ホールで特別支援学校オーケストラコンサートを開催

昨年度は石川県と富山県の特別支援学校4校を訪問して演奏会を行ったが、今年度は地元の音楽ホールに特別支援学校の児童・生徒や先生方、保護者の方々に集ってもらいコンサートを開催した。会場は石川県野々市市、小松市、穴水町の3カ所で、田中祐子さんの指揮でオーケストラ・アンサンブル金沢が演奏した。子どもたちは演奏に合わせて歌ったり、身体を動かしたりして演奏会を楽しんでいた（写真参照）。

写真提供／日本交響楽振興財団



◆特別支援学校オーケストラコンサート
小松公演(平成30年5月24日)

管弦楽 オーケストラ・アンサンブル金沢
指揮 田中祐子



◆巡回公演
伊豆公演(平成30年11月25日)

管弦楽 東京交響楽団
指揮 梅田俊明
ピアノ 金子三勇士

No. 1 1 日本聾話学校後援会

支援金募金（昭和50年度～毎年）

日本聾話学校は、1920年（大正9年）故・米国駐日大使ライシャワー博士の両親によって創設された我が国唯一の「聴覚主導の人間教育」を行う私立聾学校である。聴覚障がい児に乳幼児期からの早期教育と保護者への支援を行っている。

子どもたちは、ことばの獲得に最も大切な乳幼児期から、最適に調整された補聴器や人工内耳を装用し、残された聴力を最大限に生かして学習します。学校では、聴覚を通し日々の生きたことばのやり取りを積み重ねることにより、単にことばだけでなく子どものより良い全体的な成長発達を促し、社会の中で望ましい人間形成ができるようにサポートしています。当会はこの教育を支援するための後援会組織です。

■学校法人 日本聾話学校

所在地 東京都町田市野津田町

生徒数 92人

- ・乳幼児部 22人
- ・幼稚部 25人
- ・小学部 32人
- ・中学部 13人

写真提供／日本聾話学校後援会



オーディオロジー部 朝の補聴器



小学部 クリスマス祝会

No. 1 2 特定非営利活動法人ジャパン・プラットフォーム

インドネシア・スラウェシ島 地震・津波被災者支援活動募金(平成30年10月)

■スラウェシ島地震・津波

インドネシア・スラウェシ島中部を震源として、9月28日午後6時3分頃（日本時間午後7時3分頃）、マグニチュード7.5の地震、津波が発生。死者は2千人超。約6万8千軒の家屋が損壊し、7万8千人以上が避難生活を強いられた。

■特定非営利活動法人ジャパン・プラットフォーム（以下、JPF）

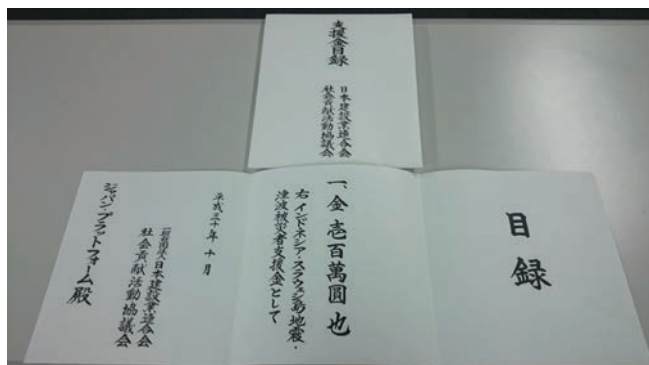
日本の緊急人道支援の新しい仕組みとして、政府・経済界・NGOが共同で2000年に設立。政府・経済界・NGOがパートナーシップのもとに連携し、迅速かつ効率的に国内外緊急支援を実施するため、単独では包括的な支援を行う財政基盤等が十分でない日本の加盟NGOを様々な形でサポートする。設立以来、105プログラム、助成額542億円、1,400以上の事業、47の国・地域において実績を持つ。

■今回のJPFのプログラム

加盟NGOである特定非営利活動法人ピースウィンズ・ジャパンが10月1日に現地入りし、緊急初動調査を開始。被災状況や支援ニーズについて、現地行政などと連携して調査を進め、JPFは10月3日に支援出動を決定。併せて、支援金の募集を開始。NGOは、食料や生活用品などの緊急支援物資の提供、子供の被災者の保護などを中心に活動。JPFは、現地での被災者支援事業について助成金を拠出。



支援金贈呈式



支援金目録

No.13 公益財団法人海外日系人協会

事業費募金（昭和52年度～）

本協会は、海外の日系人団体と各種の交流事業を総合的に行い、諸外国の対日理解を深め、各国間の親善及び相互の繁栄に寄与することを目的としている。

【公益目的事業】

1. 第59回海外日系人大会開催事業（6月開催 ホノルル）
2. 内外日系社会広報事業（協会だより、WEBサイト）
3. 在日日系人対応事業
4. 日系社会との連携強化事業
5. 継承日本語教育事業
6. 各種あっせん事業 等

写真提供／海外日系人協会



第59回海外日系人大会
（日本人の海外移住150周年を記念して、最初の集団移住先であるハワイで開催）

「6月20日は国際日系デー！」
PRプロジェクト



No.15 社会福祉法人いのちの電話

事業費募金（昭和55年度～毎年）

困難や危機にあつて、誰ひとり相談できる人もなく、自殺などのさまざまな精神的危機に追い込まれる人たちが、再び生きる喜びを見出すことを願いつつ、よき隣人として活動。

1953年に英国のロンドンで始まった自殺予防のための電話相談に端を発し、1971年に「東京いのちの電話」が設立され、日本で初めての電話相談事業が開始。

現在、約320名のボランティア相談員が、365日無休の電話相談、インターネット相談を行っている。また、ボランティア医師による電話医療相談も受けている。

この活動を担う相談員を毎年一回公募。相談員は1年半の養成研修を経て認定された後も月1回の継続研修を受けながら相談活動を続けている。

【主な事業】

1. 電話相談、インターネット相談、土曜医療相談
(ボランティア相談員の無償奉仕)
2. 活動への理解と支援拡大に向けての広報活動
3. 社会・外部組織との連携、協力

写真提供／いのちの電話



電話相談担当



全体研修会(テーマ:私たちの電話相談をふり返る)

No.16 公益財団法人がんの子どもを守る会

事業費募金（昭和52年度～毎年）

本協会は、昭和43年10月に小児がんで子どもを亡くした親たちによって、小児がんが治る病気になってほしい、また小児がんの子どもを持つ親を支援しようという趣旨のもと設立され、子どもの難病である小児がんに関する知識の普及、相談、調査・研究、支援、宿泊施設の運営、その他の事業を行い、社会福祉及び国民保健の向上に寄与することを目的としている。

【主な事業】

1. 患児・家族支援の継続と時代のニーズに見合った各種支援事業の継続
2. 小児がん関連諸制度における未解決の課題等についての意見集約と改善に向けての行政に対する積極的な働きかけ
3. 本部と支部及び支部間の連携による地域活動の強化
4. 小児がんに関する情報の発信・提供等の広報活動の強化 等

写真提供／がんの子供を守る会



学術集会(愛媛)
塩崎恭久議員による視察

研修会



No.20 職業訓練法人全国建設産業教育訓練協会

富士教育訓練センター賛助会費（平成9年度～毎年）

富士教育訓練センターは、建設現場で直接「ものづくり」に携わる建設専門工事会社、設備会社、建設関連業団体（建設専門業団体）等22団体の賛同により、平成9年4月に静岡県富士宮市の旧建設省（現国土交通省）建設大学校朝霧校跡地に開校した、建設技術者・技能者の教育訓練施設。

富士山西麓の豊かな自然に囲まれた環境にあり、約5万平方メートルの広大な敷地と約1万平方メートルの施設からなる全国最大規模の建設関係教育訓練施設。

開校以来、「ものづくりは人づくり」という信念の元、業界、企業のニーズに応えるオーダー型の教育訓練を中心に実施することで、建設現場で活躍する優れた人材の育成に努めてきた。

教育訓練実績は、これまでに約18万人、参加企業は、延べ約7万3000社に及ぶ。

写真提供／全国建設産業教育訓練協会



朝礼時の危険予知訓練



鉄骨建て方実習



測量実習



鉄筋圧接実習

No. 2 1 公益財団法人全国教諭師連盟

事業費募金（平成7年度～毎年）

全国教諭師連盟は、教諭師が矯正施設（刑務所、拘置所、少年院、少年鑑別所）において被収容者に対し精神的・倫理的・宗教的な教諭活動を円滑に行えるよう支援することを本旨としている。

教諭は自己の信ずる教義に則り、宗教心を伝え被収容者の徳性を涵養するとともに、心情の安定を図り、被収容者には自己を洞察して健全な思想・意識・態度を身につけさせ、同時に順法の精神を培い、更生の契機を与える。もって、矯正の実を上げ、社会の安定に寄与することを目的とする篤志宗教家の全国的組織である。

現在、107教宗団、1,846名にのぼる教諭師が教諭目的達成のために大きな役割を果たしている。

【主な事業】

1. 宗教教諭に関する調査及び研究
2. 教諭活動を充実発展させるための支援及び能力開発
3. 関係官庁、教宗団及びその他の関係機関との連絡調整並びに教諭活動に関する提言
4. その他公益目的を達成するために必要な事業

写真提供／全国教諭師連盟



全国教諭師大会(広島)



全国教諭師大会
原爆慰霊碑献花



研修会記録紙

No. 23 上智大学アジア人材養成研究センター

アンコール・ワット遺跡西参道修復工事募金（平成28年度～）

上智大学は平成8年、現地にアジア人材養成研究センターを建設し、アンコール遺跡の保存・修復を行うカンボジア人保存官等の養成、およびカンボジアの歴史・文化・研究・調査し、日本とカンボジアの学術交流研究拠点とした。

平成8年にアサプラ機構（アンコール地域遺跡保存整備機構）と共に着工されたアンコール・ワット西参道（第1工区100m）の修復は、「カンボジア人の手によるアンコール・ワットの修復」を掲げ、カンボジア人保存官候補者に、土木・建築・考古の技能研修を実施しながら、石積みの建築技術を検証し、平成19年7月に12年かかって完成。困難な社会情勢のさなかあって、当時内戦後カンボジア人を元気づける文化復興のシンボルとなる。

その第2・第3工区の第2期工事が日本外務省のODA（一般文化無償資金協力：9,400万円）として採択され、遺跡修復に必要な機材が現場に届けられた。

【西参道修復工事概要】

- ・工事現場 西参道（アンコール・ワットの入り口参道）第2、3工区 100m
- ・工事期間 平成28年～32年（4年間で予定）
- ・総事業経費 7億円

写真提供／上智大学



アンコール・ワット西参道修復工事 起工式



カンボジアのサコナ文化芸術省大臣より平山善吉・日大名誉教授ほか西参道修復工事関係者3名に勲章授与